

《課題名》

卵円孔形態の解剖学的特徴についての検討

《研究対象者》

西暦 2014 年 4 月 1 日より 2028 年 12 月 31 日の間に本学法医学部門で解剖させていただいたご遺体が対象となります。なお、観察に適さない状態のご遺体、及び、ご遺族が「法医解剖で得られたデータに基づく疫学的研究ならびに残余試料を用いた医学研究の実施について」に同意されなかった事例、下記（7）において試料の情報・利用の停止を求められた事例につきましては、対象から外させていただきます。

また、西暦 2009 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日までに獨協医科大学で解剖させていただいたご遺体について、記述記録をもとに情報を利用します。

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している情報及び試料を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただかずに、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方のご遺族におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（試料・情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

（1）研究の概要について

研究課題名：卵円孔形態の解剖学的特徴についての検討

研究期間：2019年6月5日(承認日)～2029年3月31日

研究機関・実施責任者：滋賀医科大学 社会医学講座法医学部門 一杉正仁

（2）研究の意義、目的について

近年注目される脳血管障害の一つに、奇異性脳塞栓症という病態があります。これは、下肢などで生じた血栓が右心房に還流された後、開存している卵円孔を介して左心房に移動し、脳の動脈に塞栓するものです。卵円孔開存症有病率は解剖例の集計で成人の20-35%と報告されていますが、この報告は19世紀末から20世紀初頭の海外のものであり、近年国内の法医解剖ではそれほど頻繁にみるものではありません。このことから、卵円孔開存症には年代による差や人種による違いがある可能性があります。国内における奇異性脳塞栓症や卵円孔開存症の方針を検討するにあたり、現代の日本人における有病率を把握することは不可欠と考え、法医解剖に付される日本人健常者における卵円孔開存の頻度を調査する研究を行います。

本研究が遂行されることで、前記の奇異性塞栓症の病態が詳細に解明されるほか、現在行われている心臓カテーテル検査などの臨床現場でも有用な所見が得られると考えます。

（3）研究の方法について

滋賀医科大学で法医解剖・鑑定業務を受けられた方については、「法医解剖で得られたデータに基づく疫学的研究ならびに残余試料を用いた医学研究の実施について」の研究にご提供いただいた試料・情報を用い、卵円孔の形態や開存の有無、有の場合その程度や部位を観察します。

西暦 2009 年 4 月 1 日より 2014 年 3 月 31 日まで獨協医科大学で法医解剖された方については、記録文書をもとに上記の情報を確認します。

研究に利用する情報は、上記の観察結果の他、年齢・性別・人種・合併症の有無です。

(4) 個人情報の取扱いについて

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方のご遺族は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

(7) 利用又は提供の停止

研究対象者又はその代理人（ご遺族）の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用（又は他の研究への提供を）停止することができます。停止を求められる場合には、下記（8）にご連絡ください。

(8) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 社会医学講座法医学部門 一杉正仁

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2200